無題

釁清 宥撕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
無題

【Ｎコード】
Ｎ８９９９Ｙ

【作者名】
釁清　宥撕

【あらすじ】
ある日、主人公は幼くして両親を失う。その後の物語。

始まり

私はお父さんとお母さんの部屋から聞こえる音で目を覚ました。
その音は何かを下ろす音とその度に聞こえる生々しい音と誰かの息切れ。
私は音を立てないように動いて、扉の隙間から部屋を見たが、誰かが立っていた以外分からなかった。すると、その誰かは扉の隙間から見ていた私の存在に気付いた。しかし、その人は私を襲わず窓から去っていった。私はその頃、幼く何が起きたのか分からなかった。
私はそのまま部屋に入っていった。
「お母さん…お父さん…起きて」
と二人を起こそうとした。しかし、返答は無かった。既に二人は死んでいたが私には理解出来ず、何度も叫んだ、又泣き叫んだ。その声で目が覚めた近隣の人たちは何かしらの異変に気付き、警察と救急車を呼んでくれた。しかし、警察や救急車が来る前に私は、疲れの余り、気を失った。

前兆

ジリリリリリリリリリリリリリガシャ。
ふぁ～ぁと大きな欠伸をして起きた。しかし嫌な夢だったと思いつつも下に降りていった。
彼女の名は、西陽葉瑠。この西陽家に暮らす明るく活発な子であったが、今悩んでいるのは最近、あの嫌な夢をよく見るようになったこと。しかし、彼女は無関心だった。
下に降りると母親の西陽那弥が朝食を作り、食べていた。
「おはよう。」
「おはよう。」
と挨拶したが、やはり父親は居なかった。
父親の西陽啓は普段から仕事の関係で家に居ることはなく、外泊していた。彼の職業は大学の教授で、本人曰くいろいろと研究しているとのことだが、自分は浮気していると思っているのに対し、母親は父親を信頼して野放しにしている。
私は早く食べて、着替え学校に行った。
学校に着き、教室に行くと、友達の碧ちゃんこと齋日碧がいた。
彼女は幼稚園の頃からの親友だ。彼女の目立つ特徴は背の小ささぐらいだが、彼女はその事をコンプレックスに感じている。
「おはよう。」
「おはよう。」
と挨拶した。そしてその後ＳＨＲが始まるまで喋った。ＳＨＲが終わり、その後平凡に学校を過ごして碧ちゃんと帰った。そこで碧ちゃんに夢のことについて話した。
「嫌な夢を見るの」
「どんな夢？」
「ええと、目の前で何者かが、人を撲殺する夢」
「ほぉ。」

と言った時、彼女は驚いていた。
「でね、私に気づくと窓から去って行くの」と言った途端、彼女は何かを思い出したような素振りを見せたが、何も言わず、その後別れた。
私は、碧ちゃんの素振りが気になって仕方がなかった。何だろうと思いつつ家に帰った。私は母親が帰ったら聞いてみようと思った。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n8999y/

無題

2011年11月27日00時50分発行